

# 二〇〇九年度早稲田大学史学会大会報告

○二〇〇九年度早稲田大学史学会大会

(期日：一〇月一〇日(土) 早稲田大学文学学術院校舎)

## ▽研究発表

〔日本史部会〕

自由民権家・桜井静の思想と実像

―一八八五年以降の著述の分析を中心に―

学部学生 森谷 元氏

室町期東寺と『東宝記』諸本の生成について

大学院学生 貫井 裕恵氏

大正期の常侍輔弼と内大臣

大学院学生 松田 好史氏

参勤道中と藩世界

国士館大学文学部非常勤講師 泉 正人氏

〔東洋史部会〕

長沙走馬楼呉簡にみえる「貸米」と「種糧」

―孫呉政権初期における穀物貸与―

南末茶法の再検討

『集史』『モンゴル史』の史料の性質

―『世界征服者の歴史』、著者不明の『モンゴル史』写本等との比較をとおして―

〔西洋史部会〕

彫像改変からみた古代ローマ人のメモリア認識

大学院学生 福山 佑子氏

デリオ・カンティモーリとイタリア宗教改革史研究

本学非常勤講師 高津 美和氏

ヴァイマル初期におけるオットー・ヘッチュの東方政策論

大学院学生 前川 陽祐氏

〔考古学部会〕

古墳築造の終焉と土木技術

エジプト新王国時代のサッカラ

―テティ王ピラミッド北側の墓域の単純埋葬についての一考察―

大学院学生 青木 弘氏

ヨルダン南部、先石器新石器B期のワデ・アブ・トレイハ遺跡に

おける石器製作技術

―当該地域における位置づけと集落内での変遷―

大学院学生 長屋 憲慶氏

▽総会 第一会議室